

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年9月12日

【四半期会計期間】 第117期第1四半期(自平成29年5月1日至平成29年7月31日)

【会社名】 日東製網株式会社

【英訳名】 NITTO SEIMO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小林 宏 明

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋二丁目20番15-701号

【電話番号】 03(3572)5376(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 北 方 浩 樹

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋二丁目20番15-701号

【電話番号】 03(3572)5376(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 北 方 浩 樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 第1四半期 連結累計期間	第117期 第1四半期 連結累計期間	第116期
会計期間	自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日	自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日	自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日
売上高 (千円)	3,879,039	4,111,254	17,948,151
経常利益 (千円)	151,582	145,782	758,189
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	83,503	102,428	557,946
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	14,863	66,590	601,549
純資産額 (千円)	4,320,763	4,870,237	4,907,012
総資産額 (千円)	19,514,117	20,282,758	19,635,644
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	32.19	39.49	215.08
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	21.5	23.4	24.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成28年11月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

（漁業関連事業）

従来持分法非適用非連結子会社であった有限会社吉田漁業部は、重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、近隣諸国の不穏な行為や米国政権の動向に対する懸念などで、国際的な緊張が高まり、経済に対する影響も懸念される状況ですが、欧米景気の拡大や政府の経済政策により、国内企業の業績や雇用環境の改善が見られるなど、回復基調で推移しております。

当社グループ主力ユーザーの水産業界におきましては、異常気象による海況の異変や一部水産資源の漁獲量の規制など厳しい状況にありますが、世界的な魚食の高まりにより、水産物の輸出額は年々増加傾向にあるなど、経営環境は概ね安定しております。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、陸上用ネットの施工工事の受注が順調であったことや連結子会社が増加したことにより前年同期と比べて増加しました。営業利益は、生産の平準化を図り、無駄な費用の削減に努めておりますが、付加価値の高い定置網の売上高が減少したことにより前年同期と比べて減少しました。営業外損益では、前年同期は為替差損が発生しましたが、当第1四半期ではドル高により為替差益が発生しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,111百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は161百万円（前年同期比34.8%減）、経常利益は145百万円（前年同期比3.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は102百万円（前年同期比22.7%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[漁業関連事業]

売上高は3,450百万円（前年同期比5.5%増）となりました。主な要因は、定置網部門の受注は減少しましたが、連結子会社が増加したことや養殖網部門、海苔網部門の受注が順調に推移したことによるものです。利益面は、付加価値の高い定置網の売上高が減少したことにより、セグメント利益は151百万円（前年同期比37.8%減）となりました。

[陸上関連事業]

売上高は658百万円（前年同期比9.0%増）となりました。主な要因は、産業用資材の受注及び陸上用ネットの施工工事の受注が順調に推移したことによるものです。利益面は、売上高が増加したことにより、セグメント利益は9百万円（前年同期比129.6%増）となりました。

[その他]

前期に引き続き機械の部品加工等の受注が低調に推移したこと等により、売上高2百万円（前年同期比20.9%減）となりました。利益面は、売上高が減少したことにより、セグメント損失は0百万円（前年同期は0百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ647百万円増加し、20,282百万円となりました。その主な内容は以下のとおりであります。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べ546百万円増加し、14,141百万円となりました。これは、売上債権及びたな卸資産が増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ100百万円増加し、6,140百万円となりました。これは、当期から連結子会社となった会社の有形固定資産が増加したこと等によるものです。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べ627百万円増加し、9,508百万円となりました。これは、仕入債務は減少しましたが短期借入金が増加したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ56百万円増加し、5,903百万円となりました。これは、長期借入金が増加したこと等によるものです。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ36百万円減少し、4,870百万円となりました。これは、為替換算調整勘定が減少したこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は48百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,400,000
計	6,400,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年9月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,605,000	2,605,000	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、100株であります。
計	2,605,000	2,605,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月31日		2,605,000		1,378,825		510,292

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,582,500	25,825	同上
単元未満株式	普通株式 11,500		同上
発行済株式総数	2,605,000		
総株主の議決権		25,825	

(注) 1 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年4月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日東製網株式会社	東京都港区新橋 二丁目20番15-701号	11,000		11,000	0.42
計		11,000		11,000	0.42

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	942,425	768,975
受取手形及び売掛金	2 6,593,193	6,779,504
商品及び製品	3,827,847	3,974,865
仕掛品	758,583	713,888
原材料及び貯蔵品	1,073,365	1,134,178
繰延税金資産	109,897	86,010
その他	476,344	866,683
貸倒引当金	186,672	182,434
流動資産合計	13,594,985	14,141,670
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,345,310	2,342,238
その他(純額)	2,155,884	2,199,213
有形固定資産合計	4,501,195	4,541,451
無形固定資産	71,905	89,077
投資その他の資産		
長期営業債権	1,014,643	968,917
その他	1,254,362	1,313,189
貸倒引当金	802,331	772,117
投資その他の資産合計	1,466,674	1,509,989
固定資産合計	6,039,774	6,140,518
繰延資産	884	569
資産合計	19,635,644	20,282,758

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 3,830,583	3,290,348
短期借入金	3,568,456	4,368,931
1年内償還予定の社債	100,000	200,000
賞与引当金	228,267	193,340
その他	2 1,154,378	1,456,364
流動負債合計	8,881,687	9,508,985
固定負債		
社債	100,000	-
長期借入金	4,816,023	5,008,385
長期未払金	75,425	66,735
役員退職慰労引当金	170,184	157,122
退職給付に係る負債	522,476	506,462
環境対策引当金	19,108	19,108
繰延税金負債	107,724	107,726
その他	36,003	37,996
固定負債合計	5,846,945	5,903,536
負債合計	14,728,632	15,412,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,378,825	1,378,825
資本剰余金	510,292	510,292
利益剰余金	2,998,182	2,997,349
自己株式	17,189	17,293
株主資本合計	4,870,111	4,869,174
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,883	49,790
為替換算調整勘定	137,435	176,296
その他の包括利益累計額合計	89,551	126,505
非支配株主持分	126,452	127,568
純資産合計	4,907,012	4,870,237
負債純資産合計	19,635,644	20,282,758

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
売上高	3,879,039	4,111,254
売上原価	2,932,288	3,284,492
売上総利益	946,751	826,762
販売費及び一般管理費	698,729	665,135
営業利益	248,022	161,626
営業外収益		
受取利息	7,426	8,550
持分法による投資利益	13,324	22,551
為替差益	-	785
その他	27,874	23,977
営業外収益合計	48,625	55,864
営業外費用		
支払利息	28,911	24,557
手形売却損	7,205	5,385
保証債務費用	-	31,191
為替差損	101,878	-
その他	7,070	10,573
営業外費用合計	145,065	71,708
経常利益	151,582	145,782
特別利益		
固定資産売却益	608	145
特別利益合計	608	145
特別損失		
解体撤去費用	-	1,749
固定資産除却損	414	187
投資有価証券評価損	-	1,000
特別損失合計	414	2,937
税金等調整前四半期純利益	151,775	142,991
法人税、住民税及び事業税	37,223	14,968
法人税等調整額	37,881	24,481
法人税等合計	75,105	39,449
四半期純利益	76,670	103,541
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失()	6,832	1,112
親会社株主に帰属する四半期純利益	83,503	102,428

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
四半期純利益	76,670	103,541
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,309	1,910
為替換算調整勘定	41,022	30,792
持分法適用会社に対する持分相当額	9,475	8,068
その他の包括利益合計	61,807	36,950
四半期包括利益	14,863	66,590
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,699	65,475
非支配株主に係る四半期包括利益	6,835	1,115

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日至平成29年7月31日)	
連結の範囲の重要な変更	従来持分法非適用非連結子会社であった有限会社吉田漁業部は、重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
受取手形割引高	2,774,237千円	2,567,133千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、前連結会計年度末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
受取手形	1,000千円	千円
受取手形割引高	293,988	
支払手形	324,893	
その他(設備関係支払手形)	1,036	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日至平成29年7月31日)
減価償却費	122,335千円	125,039千円
のれんの償却額		1,810

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年7月27日 定時株主総会	普通株式	90	3.5	平成28年4月30日	平成28年7月28日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額については、基準日が平成28年4月30日であるため、平成28年11月1日付の株式併合前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年7月27日 定時株主総会	普通株式	103	40	平成29年4月30日	平成29年7月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年5月1日至平成28年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	漁業関連事業	陸上関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,271,910	604,319	3,876,230	2,809	3,879,039
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	3,271,910	604,319	3,876,230	2,809	3,879,039
セグメント利益又は損失()	244,170	4,237	248,408	385	248,022

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業用機械の製造・メンテナンス等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年5月1日至平成29年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	漁業関連事業	陸上関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,450,313	658,719	4,109,032	2,221	4,111,254
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	3,450,313	658,719	4,109,032	2,221	4,111,254
セグメント利益又は損失()	151,971	9,730	161,701	75	161,626

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業用機械の製造・メンテナンス等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間より、有限会社吉田漁業部の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「漁業関連事業」のセグメント資産が、70,222千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「漁業関連事業」のセグメントにおいて、当第1四半期連結会計期間より、有限会社吉田漁業部の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。これにより、のれん21,721千円が発生しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額	32円19銭	39円49銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	83,503	102,428
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益金額(千円)	83,503	102,428
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,594	2,593

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 平成28年11月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年9月7日

日東製網株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 野 邊 義 郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川 越 宗 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日東製網株式会社の平成29年5月1日から平成30年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日東製網株式会社及び連結子会社の平成29年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。